

令和4年度 奈良県立王寺工業高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	工学的な知識・技術を活用し、グローバルな視点を持ちながら地域コミュニティを支えるグローバルな人材の育成
年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の挑戦を応援し、支える取組を全ての教育活動で実施する 2. 生徒一人一人が主体的に学ぶことが出来る環境を整備・充実する 3. 楽しい授業・わかりやすい授業を通して、基礎・基本の確実な定着をはかる

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ものづくり」に興味・関心があり、技術等の習得に前向きに取り組む生徒 2. 規律を守り、意欲的に高校生活を送りたいと強く思っている生徒 3. チャレンジ精神旺盛で、協調性を持って目標に挑戦する生徒 4. 専門知識と技能を習得し、資格取得や検定合格に取り組む生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神に徹し、正しい生き方の自覚を深め、社会連帯の精神を養うとともに、人間性豊かな生徒の育成に努めます。 ・基礎学力の定着を図り、専門的な知識と技術を習得させるとともに、創造的な知性・技能を育てます。 ・正しい判断力と強い意志力、たくましい心身を育てるとともに、自律的な生活態度を養います。 ・体験的な学習や実践を通して、正しい職業観や勤労観を身につけさせるとともに、自信と意欲をもたせます。 <p>本校では上記の教育方針の下、その実現に向けた以下のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生きる力の基礎、心身ともに豊かな人間性を育成する普通教科と、社会形成能力を育成する専門教科を実践します。 2. 普通教科を中心とした基礎学力の定着から、工業（特に機械、電気、情報）に関する専門教科を座学や実技を通して協働的・実践的・体験的に学ぶ教育を実践します。 3. グローバルに活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を養成するための教育を実践します。 4. 課題対応能力を育成するため、学校設定科目・課題研究では、協働型・問題解決型・探究型学習を実践します。 5. グローカルな人材を育成するため、地域や産業界との連携を図り、就業体験学習等を通してキャリア教育を実践します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に社会を生き抜くために必要な、自ら行動する力・考える力 2. 真理の探究に向け、自ら学び、協働的に粘り強く挑戦する力 3. 専門知識技能、ものづくり力を身につけ、コミュニティ（特に工業分野）に貢献できる力

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせはぐくむ	・健康教育の充実	・教育相談（カウンセリング等）の満足度を高める	・教育相談室利用アンケートの実施	アンケートの結果、約86%の生徒は相談事がないため利用していないことが判明した。しかし、約2%の生徒が相談室の利用方法がわからないと答えたことから、利用方法を周知する必要があると考えられる。	実施準備中である。	アンケート実施は適切。結果の公表が望ましい。	年度初めにプリントやクラスルームを通じて保護者および生徒に教育相談室の存在をアピールする 終業式や始業式ごとに再度教育相談室の利用について周知を行う。
	・食育の推進	・朝食摂取率90%以上	朝食摂取率70%以上。	新体力テストのアンケート項目『朝食の有無』では朝食摂取率74%であった。栄養バランスを考えず空腹を満たしているといった課題なども判明した。	生徒に挙手で朝食の有無を聞くと、ほとんどの者が食べている。しかし、栄養バランスなどにはあまり拘りを感じないため、その辺りも啓発していきたい。	食育の大切さを理解させる。家庭にバランスのとれた献立メニュー案等を提示。個々の考えが異なるため啓蒙は難しい。朝食の欠食による身体に及ぼす影響についてどのように啓発しているのか。食物を粗末にするような様子は見受けられなかった。	単に空腹を満たすだけでなく、栄養バランスを意識した食品をチョイスできるように、メニュー例なども配布し啓発したい。
	・体力の向上と運動習慣の定着	・体育実技授業への積極的な参加を促すとともに、必要な支援を施す。 ・新体力テスト平均Tスコア50.0以上 ・学校行事や体育授業を通して、運動習慣の定着を目指す	・ICT等を活用し、知識として体育実技への興味・関心を高める。 ・新体力テスト平均Tスコア43以上。	新体力テスト結果では、Tスコア1.7pt上昇していた。生徒は体育授業や学校体育行事に積極的に取り組んでいた。	体育授業や体育行事には積極的に取り組ませることができた。新体力テストに関しては、1年間の取り組みが反映されるのは来年度の結果になると思うが、今年度にも期待したい。	基礎体力をつける運動に力を入れる。	授業等で基礎体力運動に力を入れると同時に、運動・体力の必要性を知識として理解させることで、授業や部活動以外でも体力向上に努める資質を養いたい。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	・主体的・対話的で深い学びの実現	・探究系科目における授業アンケート（授業満足度70%以上）	授業改善アンケートを2回実施	12月に1回実施することができた。	年2回実施できるようにし、授業に反映できるように行っていきたい。	目標がアンケートのみなので、具体策の明示をいただきたい。年1回しか実施できていない。	課題研究のアンケート結果、大変満足67%、満足26%、やや不満4%、不満3%。さらに満足できるよう、授業改善に努め、生徒の理解度を深めることで深い学びが実現できるように授業を行いたい。
	・教職員の資質向上	深い学びの実現に関する教員研修回数（年4回）	観点別評価に関する職員研修を4回実施	「指導と評価の一体化」に関する研修を4回実施できた。	教科主任・科長との研修が多かったため、共通理解できるよう今後は職員全体の研修を行っていきたい。	当初の予定通り、研修を実施されている。	「指導と評価の一体化」の研修を行い意思統一を図る。生徒が自主的に学べるよう授業の工夫を行う。
	・ICTを活用した教育の推進	普通科を含めたすべての授業アンケート（「ICTを適切に使用している」70%以上が科目数の半数を超える）	授業においてICT機器を活用した授業を展開し情報活用能力の向上をはかる。	授業アンケートにおいて、科目数の半数が、70%以上の値を示していた。	生徒の端末や電子黒板を使用し、工夫された授業が展開されている。今後も、多くの教科で活用できるようにしていきたい。	生徒数分のパソコン等を用意できないか。実習以外の教育に使用する。すべての科目で70%以上を超えるよう授業改善に尽力されることを期待しております。BYOD自宅での活用。	ICT機器をすべての科目で70%以上にするため、各科目のコンテンツの増加と共有をおこない、さらに多くの授業で活用できるよう工夫していきたい。
	・安全安心な教育環境の整備	科目実習や課題研究の授業アンケート（「安心、安全な教育環境を実現している」70%以上）	・安全に実習等の実技が行えるよう服装から工具・機械の使用について安全確認を行う。 ・科目実習や課題研究の授業アンケート「安心、安全な教育環境を実現している」70%以上	授業アンケートにおいて、「安心、安全な教育環境を実現している」が85%以上の値を示していた。また、授業始に安全指導があるも90%近い値を示していた。	体育や工業科の実習等では、必ず安全確認・安全指導が行われている。そのため、怪我も少なかった。今後も確実に行っていきたい。	生徒数分のパソコン等を用意できないか。実習以外の教育に使用する。すべての科目で70%以上を超えるよう授業改善に尽力されることを期待しております。BYOD自宅での活用。	不注意で起こる、かすり傷や、紙で指を切ったなどの怪我もないように、さらに安全確認・安全指導を行い、また、集中して作業等行えるよう授業を工夫する。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	・キャリア教育・職業教育の推進	・インターンシップの実施（参加者95%以上） ・卒業生による進路講演会の実施（企業12社以上、進学先2校以上）	・インターンシップの充実を図るため、2年生には進学、就職の希望とは関係なく参加を促す。 ・卒業生による進路講演会を実施予定。	・インターンシップ参加者97%に達したが、コロナによる企業側の中止、生徒側の欠席などが出てしまった。 ・卒業生による進路講演会では、12社4校のOBOGを招聘して実施できた。	・インターンシップ先の見直しが必要である。毎年実施していない企業で良い企業が多くある。 ・卒業生による進路講演会は、継続していきたい行事である。	コミュニケーションやマナー等社会人として必要なスキルを身につける教育。実績値・満足度も高い。インターンシップが充実しているのが素晴らしい。課題別研究発表会においても身近な問題にめを向け、計画的に取り組まれている様子がわかりました。離職率	・インターンシップでは、危険な作業ができないので、職場体験にはならないといった意見があったが、生徒には職場の雰囲気、音、匂いを感じ取ってもらうことでも、良い経験になると考えており、今後も継続して実施する。
	・社会に役立つ実学教育の推進	・進路講演会の実施各学年1回以上 ・基礎力診断テストの実施（1学年2回、2学年2回、3学年はSPI）	・進路講演会を各学年で、実施を予定。講演会を通じてキャリア教育を行う。 ・基礎力診断テストのデータを返却する時に、担任からアドバイスすることで、基礎力向上を目指す。	・今年度は各学年で進路講演会を実施することができた。 ・基礎力診断テスト（1学年3回、2学年3回、3学年SPI）を実施することができた。	・進路講演会は、以前とは違うやり方で、教育研究所のキャリアサポートセンターを活用することができた。 ・基礎力診断テストでは、生徒の苦手を発見できるなど、その後の指導にも生かせる内容となってきた。	各学年でどういった内容が聞きたいかのアンケート実施。苦手な指導後次のテストでの結果評価。講演会等も適宜実施されているようである。SPIの実施は3年生が適切かどうか	・基礎力診断テストでは、各学年での実施ができたことにより、生徒の基礎学力がどのように向上しているかが分かる。 ・キャリアサポートセンターなどを活用して今後も講演会などをしていく。

4. 地域と協働して活躍する人を育てる	・地域との連携・協働推進 ・高大連携	・学校運営協議会を活用し、地域の意見や期待を踏まえ学校運営を行う ・進学希望者に対するアカデミックインターンシップを実施	・大阪産業大学との高大連携により、アカデミックインターンシップの実施と参加者の増加を目指す。 ・他大学との提携に取り組み、複数大学でのアカデミックインターンシップの実施を目指す。	・アカデミックインターンシップとして、大阪産業大学との連携を今年度は実施することが可能となった。また、参加者数は、今年度初めてと言うこともあり、3名が参加した。	・来年度は研究室などで大学生と高校生とが共に学べる日程などを依頼していきたい。	奈良県・王寺町と連携も必要 高大連携がしっかり取組されている。王寺町内の学校へ交通安全標識を寄贈いただいていることに感謝しています。開校記念に王寺北義務教育学校へ銘板を寄贈いただきありがとうございます。近所のゴミ拾いなど積極的に行っているのが見受けられます。	・大学との連携を深め、オープンキャンパスから、授業聴講や研究室への参加も含めたインターンシップを実施する予定。 ・高大のみならず、地域との連携も深め王寺町を住みやすい地域になるよう働きかけていく。
	・地域社会に貢献する人材の育成	・王工版デュアルシステムの実施（参加学年・クラスの10%程度） ・県内企業に就職したいと考える生徒数の割合35%→40%以上	・参加学年・クラスの10%程度を維持。 ・県内企業の割合36.8%となり40%を達成できなかった。	今年度、王工版デュアルシステムを各科で実施し、参加学年・クラスの10%以上を達成することができた。	今後もこの参加割合を維持するよう努めていく。	奈良県の魅力をもっと伝えるべき。企業の求人状況もあるため、目標を大きく乖離していると感じない。王寺北義務教育学校の児童生徒の範となり挨拶等礼法を行う本校生徒に頭がさがる思いです。次年度は義務教育学校の児童生徒会とのコラボで、JR王寺駅前等でのあいさつ運動が実施できればと考えています。	奈良県の魅力を伝えるために、今後も様々な施策を検討していきます。 近隣小中学校等との連携についても、今後積極的に実施していきます。
	・グローバル人材の育成	・英語検定の合格者数を現状の1.5倍を目指す	・英検合格者を現状の1.1倍にする	今年度は達成できている。	今後もこの割合を維持したい。	ビジネス英会話ができる人材を増やす。TOEICへの参画・推進 英語は必要なので継続した取組をお願いしたい。	・英検の受験者数を増やし、英語への意識を高める。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	・いじめ・不登校等への対策	・アンケートや面談をとおして、早期発見につとめる	・立哨等をおして生徒とのコミュニケーションの場を増やし相談しやすい雰囲気をつくる	コミュニケーションの場を増やしたことで、生徒から相談を受けることができ、対応することができた。	：軽微な事案を含め、いじめとして6件認知することができた。今後も積極的に認知し見守っていきたい。	第三者機関（町・県等の相談窓口）の活用。早期発見のための言いやすい環境の整備 LINEの活用。道徳教育の充実も必要。	早期発見のためBYOD端末を利用したアンケートを定期的実施する。教員と生徒のコミュニケーションの場を積極的に設ける。
	・特別支援教育の推進	・特別支援委員会で認定した生徒への必要な支援を行う。	・県内で統一された様式を使った、個別の支援計画書の作成	特別支援委員会で認定した生徒に対して、個別の支援は行われている。	統一された個別の支援計画書は次年度より実施されるため、準備をしている。	生徒個々に合わせた計画書の作成。高い実施率が見受けられる。	個別の支援計画書を、口頭だけでなく、書面で教員間で共有できる環境を構築する予定である
	・多文化共生教育の推進(外国人児童生徒等への対応)	・三年間の人権教育計画に沿ったHRの実施率90%以上	・人権教育計画に沿ったHRの実施率70%を維持	今年度のHRの実施率は90%をこえることができた。	次年度もHRの実施率90%以上を目指す。	次年度以降に期待	継続して、実施率90%を継続しやすいHR計画を考えていく。
	・学校教育における人権教育の推進	・「人権を確かめ合う日」アピール文を年7回発行して全生徒と職員に啓発する	・「人権を確かめ合う日」アピール文を年7回発行	今年度は達成できた。「人権を確かめ合う日」は人権部員がそれぞれ考えて発行しているため、ばらつきはあるが、基本的な人権教育に必要な知識を取り入れながら、生徒に啓発している内容も見受けられる。	次年度も達成に向けて人権教育部員と協力していく。	生徒自身に考えさせることが必要。アピール文とはどのようなものか。	考え方の統一は難しいと思われるが、せめて発行する用紙サイズの統一はかりたいと考える。 (A4やB5、B4などまぼらであったため)

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

・保護者アンケートの結果によると、ほぼすべての質問項目において高い評価をいただいている。特に、「子供を王寺工業高校に通わせてよかった」という項目での満足度がより高い(95%以上)ことは、日頃の教職員の取組が評価いただいている結果であると考えている。ただ、学年進行とともに評価が下がっている項目も少し見受けられるので、満足度を上げられるよう努力したい。

・学校運営協議会で、委員の方々から建設的で前向きな意見をいただいた。その意見を踏まえ、今後の学校経営に活かし、本校のさらなる飛躍と発展のため尽力していきたい。